

東京都美術館は、日本初の公立美術館として2026年に開館100周年を迎えます。
ー東京都美術館開館100周年記念ロゴおよびラインナップ発表のお知らせー



旧館



©東京都美術館

2026年、東京都美術館は開館100周年を迎えます。1926年の開館以来、当館は日本初の公立美術館として、芸術家たちの作品発表の場、世界や日本の名品と出会う場、そしてアートを通して人々が出会う場を提供してきました。2026年は特別展や企画展のほか、アーカイブズ資料展示やシンポジウム、特設サイトの公開など、さまざまな開館100周年記念事業を展開していきます。

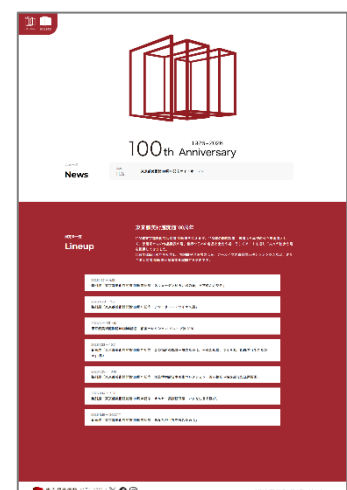
100周年の記念ロゴは世界的に活躍するデザイナー・吉岡徳仁氏がデザイン。吉岡氏は当館の「シンボルマーク・ロゴ」を2011年にも手がけており、今回も独自の美意識により、洗練されたデザインに仕上げてくださいました。

また、100周年記念事業の内容や100年の歴史を振り返る100周年記念特設サイトの公開に先立ちティザーウェブサイトを開設し、2026年 展覧会ラインナップを公開しています。

今後、この記念ロゴとともに、100周年を盛り上げる、さまざまな事業を展開してまいります。どうぞ期待ください。

▶東京都美術館開館100周年記念特設サイト（ティザー）

<https://www.tobikan.jp/100th/>



<2026年 展覧会ラインナップ>

■特別展「東京都美術館開館100周年記念 スウェーデン絵画北欧の光、日常のかがやき」

会期：2026年1月27日～4月12日

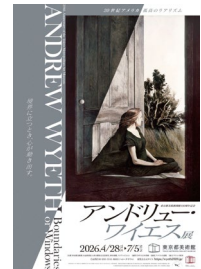
概要：雄大な自然や心地よい暮らしで知られる北欧への関心が高まる中、スウェーデン美術を紹介する展覧会を開催します。スウェーデン国立美術館の全面協力のもと、スウェーデン美術黄金期ともいえる19世紀末から20世紀にかけて生み出された魅力的な絵画を通して、自然と共に豊かに生きる北欧ならではの感性に迫ります。



■特別展「東京都美術館開館100周年記念 アンドリュー・ワイエス展」

会期：2026年4月28日～7月5日

概要：20世紀アメリカ具象絵画を代表する画家のアンドリュー・ワイエス（1917-2009）の回顧展。91歳で没するまで自分の身近な人々と風景を描き続けたワイエスの作品には、自分のいる側と向こう側を隔てる象徴として窓や扉といったモチーフが多用されます。本展はそれらのモチーフを中心に、ワイエスが描いた世界を見ていきます。



■「東京都美術館開館100周年記念 都美セレクション グループ展 2026」

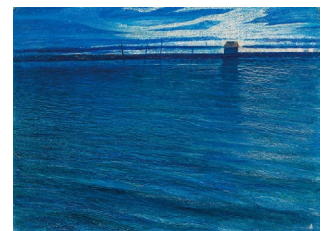
会期：2026年6月～7月上旬

概要：従来の発想にとらわれず新しい表現を追求する現代作家たちの創作活動の支援を目的としたグループ展です。東京都美術館の展示空間だからこそ実現可能な、グループによる展覧会企画を公募し、審査により選出した3つのグループによる展覧会を開催します。

■企画展「東京都美術館開館100周年記念 この場所の風景－誰のために、何のために、つくられ／記録されてきたのか」（仮）

会期：2026年7月23日～10月7日

概要：日本初の公立美術館として誕生し、美術家たちの作品発表の場として日本近代美術の展開と共に歩んできた東京都美術館。そこから遠く離れた場所で、発表を前提とせず私的／個人的に展開された美術活動。それぞれの「100年」を並行して振り返ることで、美術の持つ根源的な意味や、美術館の今後のあり方について再検討する機会を創出します。



江上茂雄《海のくもり日II》
1960年頃 クレヨン 個人蔵

■特別展「東京都美術館開館100周年記念 大英博物館日本美術コレクション

百花繚乱～海を越えた江戸絵画」

会期：2026年7月25日～10月18日

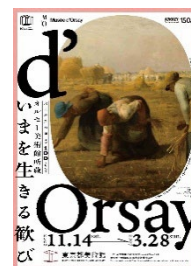
概要：4万点に及ぶ大英博物館の日本美術コレクションから、江戸時代の屏風、掛軸、絵巻の絵画作品と、歌麿、写楽、北斎、広重など代表的な8人の浮世絵師による版画を中心に、優れた作品を厳選して紹介します。さらに、近年の調査成果や収集の背景にも光を当てることで同館が日本美術の収集・研究・保存の第一線で果たしてきた役割をたどります。



■特別展「東京都美術館開館100周年記念 オルセー美術館所蔵 いまを生きる喜び」

会期：2026年11月14日～2027年3月28日

概要：「印象派の殿堂」と称されるオルセー美術館のコレクションから、「いまを生きる喜び」をテーマに絵画や彫刻、工芸や写真など約110点を展示。近代化により急速に変わりゆく19世紀から20世紀初頭の社会で生まれた芸術は、絶えざる技術革新の波を生きる今の私たちになお新鮮な視座を示してくれます。ミレー《落穂拾い》をはじめ、ルノワール、モネ、ファン・ゴッホらの作品を通して、多様な喜びのあり様をご紹介します。



■企画展「東京都美術館開館100周年記念 あなたが世界を読むために」

会期：2026年11月19日～2027年1月11日

概要：本展では、アルベルト・ジャコメッティ、砂澤ビッキ、谷川俊太郎、エレナ・トゥタッチコワ、山西ももの作品を通して、アートを「世界を読む」行為として捉えます。身体や言葉、自然を手がかりに表現された作品は、「世界とは何か」という問いを投げかけ、見る者に自身の存在の核心に触れ得るような機会を開いてくれることでしょう。

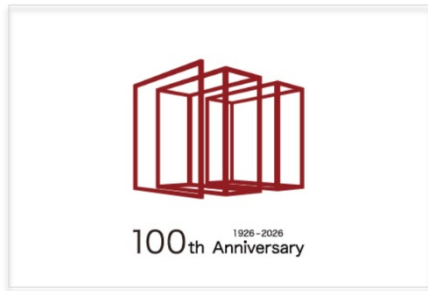


谷川俊太郎 自画像 1951年

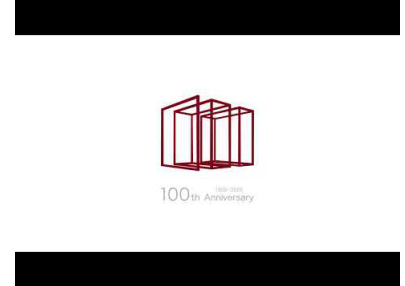
※この内容は2025年11月6日現在のものです。事業内容は変更する場合がございます。

<記念ロゴ>

東京都美術館開館100周年記念ロゴ



モーションロゴ



<https://x.gd/Zbd3n>

吉岡徳仁氏メッセージ

2011年、東京都美術館のシンボルであるロゴマークをデザインさせていただきました。

世界中の人々に親しみを感じていただけるよう、1975年に前川國男氏により設計されたキューブ状の美術館をモチーフにデザインいたしました。

この度は、開館100周年、誠にありがとうございます。

このような特別な節目に、記念ロゴをデザインさせていただけたことを、大変光栄に思います。

これからも、国内そして世界から親しまれる、アートの拠点として、ますますご発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

吉岡徳仁

吉岡徳仁 (TOKUJIN YOSHIOKA)

デザイナー / アーティスト

1967年生まれ。倉俣史朗、三宅一生のもとでデザインを学び、2000年吉岡徳仁デザイン事務所を設立。

デザイン、建築、現代美術の領域において活動。

代表作には、東京2020オリンピックの聖火リレートーチをはじめ、パリのオルセー美術館に常設展示されているガラスのベンチ「Water Block」、結晶の椅子「VENUS」、虹の教会「Rainbow Church」、ガラスの茶室「光庵」などがあり、作品はニューヨーク近代美術館（MoMA）やフランス国立近代美術館（ポンピドゥー・センター）、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館（V&A）など、世界の主要美術館に永久所蔵されている。

国際的なアワードを多数受賞し、アメリカNewsweek誌による「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれている。

■お問い合わせ

東京都美術館 広報担当

TEL : 03-3823-6921 / Mail press@tobikan.jp / WEB : <https://www.tobikan.jp>

〒110-0007 台東区上野公園8-36

※最新情報は、公式ウェブサイトでご確認ください。